

2022年6月28日

ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 学校関係者評価報告書

ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校
校長 杉山 枝里

学校法人ミスパリ学園 ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 学校関係者評価委員会は2021年度（令和3年度）自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施致しましたので、以下のとおり報告致します。

1. 開催日時：2022年6月28日 13：00～16：00
2. 場 所：ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校
3. 参加者

学校関係者評価委員

進藤 大 (株式会社sline (美容室サンベイス) 代表取締役)
(日本美容業生活衛生同業組合連合会 渋谷区副支部長)

宮腰 大司 (有限会社ヘアーゲスト 代表取締役)

平山 浩篤 (株式会社シェイプアップハウス 取締役)
(学校法人ミスパリ学園評議員)

杉原 昭二 (学校法人ミスパリ学園理事、評議員)

須賀谷 映子 (NPO法人日本スパ・ウェルネス協会 教育委員長)
(学校法人ミスパリ学園評議員)

越川 治枝 (株式会社シェイプアップハウス 教育部 部長)

事務局 杉山 枝里 (ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 校長)
川原田 恵美 (ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 教育課)

陪 席 東 千晶 (株式会社シェイプアップハウス 人事部 部長)

1. 学生アンケート結果における改善点

【現状、取り組み】

2021年度の授業における重点的な取り組みの中で「授業の満足度を上げる」という項目を掲げて取り組んだ。前期、アンケートの学生の意見の中で、教員間での内容説明の違いや授業中の環境・状況についてなど授業中の指導についての意見があった。これらの意見に該当するアンケートから分析し、講師により指導や説明の仕方に差があることが分かった。対策として前期から後期に向け以下の2点について取り組んだ。

- ① 副校長と、講師個人のアンケート結果を元に学生指導における具体的な改善策を考える個人面談を実施。
- ② 技術研修で技術を伝達する伝達方法、指導方法、説明の仕方などをテーマにディスカッションを行い指導の統一を図った。

その結果、後期のアンケートには前期と同様の意見はなくなり、授業満足度に関しては、前期と比べ後期では1.4ポイントの上昇となった。今後も指導力の強化を図り、引き続き改善に向け実施をしていく。

全体の授業満足度を前回の結果と比較すると、ほぼ全項目で前年度を上回り、評価が高いことから、現段階では学生の授業に対する満足度は概ね得られていると判断している。例年、前期後期の授業アンケートの数値に変動があったが改善されていた。

その理由の一つとして、毎年、前期・後期での差はメイク・ネイル選択者クラスに散見されるが、これは2年次後期には、エステティックの資格試験が多くなることで、学習に対するモチベーションが維持できず、学生の授業満足度の低下につながっていたと思われる。2021年度は新たな取り組みとして選択メイクの授業内で、外部機関で行われているコンテストに参加することとした。結果として、1名が入賞したこともあり、メイク授業に対する取り組みに変化が見られた。

2. 評価点の理由

【現状、取り組み】

〈自己評価が前年度と比べて上がった理由〉

前回の課題であった自己評価の低さに対し、教職員全員に取り組みを説明しながら自己評価に対する理解度を深めることができたため、全体的に前年度よりも評価が上昇したと考えられる。「目標達成」や「進級率・卒業率のUP」などの結果が、講師の自己評価の向上に繋がった。

また、「教育活動」「学修成果」の中で一部の評価に講師全体の認識不足があった事は、早急に改善が必要である。

〈2021年度重点的に取り組んだ施策として〉

- ① 授業の満足度の向上
- ② 定員充足率・進級率・卒業率の向上と中途退学者の減少
- ③ 講師レベルの向上

〈2021年度 具体的な取り組み〉

- ① 授業の満足度の向上

学生アンケート結果における改善点の部分で、報告済。

② 定員充足率・進級率・卒業率の向上と、中途退学者の減少

中途退学を減らすため、以下の3点を実施した。

- ・ 高校訪問の際、当該学生の高校時代の様子などを伺い、教員間で情報の共有を行った
- ・ クラス間の格差を無くす目的でバランスを考慮した振り分けを行った。
- ・ 1年生に対しては、入学後の不安を解消するため、面談の回数を増やした結果、中途退学者数の減少、進級率、卒業率UPにつながった。

③ 講師レベルの向上

外部研修への参加を積極的に行い、後日全体に向けてフィードバック研修を実施した。「ADHDの子供に対する支援」「ホスピタリティ研修」など、学生の個性を早期に見出し対応できるための知識を深めることで、心身面の健康管理や問題点について即座に対応できる研修を実施した。

3. 2022年度、重点的に取り組む施策

重点目標

- ① 学内をはじめ様々な分野の関係者との連携を密にして学生のサポート体制を充実させる。
- ② 気づきや問題点に対し、速やかに行動し対応できる講師を目指す。

具体策

<学生指導とサポート>

- ・ 学生のメンタルサポートの強化

高校生活の出席状況が入学後の出席状況に深く関与していることから、学生の出身高校との連携を深め、個別指導できる体制を整える。併せて保護者様にも欠席の状況を把握していただき、早期改善に向け、ご協力をいただく。

- ・ 自己管理能力の向上

入学後の指導に「健康を提供する職業に従事する者として」自己の体調管理をする意識を高めて、社会人として容易に休まない人財を育成していくための指導を強化し、進級率・卒業率の向上を目指す。

<学習に対するフォロー>

- ・ 学生それぞれの学習習慣、習得状況に差があり、各試験の結果から、学習方法が分からない学生に向けての対策を行う必要がある。そのため対策を講じる教員の指導力の向上を図る取り組みとして、講師研修において指導方法についての研修を充実させていく。

<地域交流と地域貢献>

- ・ 福祉施設のボランティア活動の調整、その他ボランティア活動への積極的な参加を検討する。
- ・ ミスバリ祭、学内サロンの運営をSNSの活用により、広く地域の方や高校の先生にお知らせし、お越しいただけるよう実施する。

<業務の効率化>

- ・ 年間の業務スケジュール表を作成するなど効率化を図るとともに、教員個々が効率的に仕事を進められるように日々改善を行う。

委員より

特に学生募集においては、2021年度の取り組みを聞き、改善による成果が現れていると感じられた。但し、名古屋校のこれまでの傾向として、達成した翌年の達成率が低いなど大きな波を感じられるため、今回の成果が継続できるよう学生指導においても、継続的に達成ができるよう尽力していただきたい。

以下の3項目については、総括からの移動。

また、学生アンケートについても在校生を対象に行っているアンケートのため満足度も高く評価も良くなるが、在籍している学生の声だけでなく、卒業生や中途退学者に対しても「学生の本音」を把握するための具体策も検討し、分析してもらいたい。

学生指導の面では、指示待ちをする学生が多いため、まずは自分から積極的に質問し行動できる人材育成に向け、必要なスキルを在学中から指導をお願いしたい。

更に教員に関しては実務家教員として常に最新の情報を取り入れ、学生指導に活かすための努力を続け、より良い教育ができる工夫をしていただきたい。

<質問>

- ① 2022年入学者数がコロナ禍の中で定員達成をしている要因は何か
- ② 実際に学内サロンやミスパリ祭に高校の先生方が参加しているか

<質問に対する名古屋校の取り組みと現状>

- ① コロナ禍にあって、見学に行けなかった高校3年生は、高校1・2年生に見学に行った専門学校に進学する傾向があった。名古屋校では、特に高校1・2年生へのフォローアップを行っていたため、高校3年生になり、再度来校してくれた高校生の入学につながる傾向があった。
- ② ミスパリ祭には、マナー教育の一貫としてお世話になった高校の先生をお招きして来校いただき学生の習得した技術を体験してもらうことで成長を実感して頂けた。

全体総括

今回の学校関係者評価委員会では、①学生アンケート結果における改善点、②自己評価点の理由、③重点的に取り組む施策についての3つのテーマで分析、結果報告を行ったことで現状考えられる問題点を抽出し、改善点を明確にすることができた。

今後も評価委員からのアドバイスを全職員に共有し、学生がより学びやすい環境づくりに向け教職員全員で課題に取り組んでいく。

以上